

(社)日本原子力学会 標準委員会
第21回 原子燃料サイクル専門部会(FTC) 議事録

1. 日時 2005年9月12 (月) 14:00～17:20

2. 場所 東京大学 システム量子工学専攻 1F 123 講義室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 田中 (部会長) (議事5.(8)の途中まで), 駒田 (副部会長), 藤原 (幹事),
阿部, 有富 (議事5.(7)まで), 井口, 伊藤, 大橋, 金木 (議事5.(3)より),
川上(博人), 川上(泰), 河村, 佐久間, 武田, 中島, 堀川 (議事5.(3)より),
前川, 三塚, 宮川 (19名)

(代理出席委員) 仲神 (阪口代理), 中山 (土尻代理) (議事5.(3)より) (2名)

(欠席委員) 秋田, 小佐古, 長崎, 長谷川, 森山 (5名)

(常時参加者) 飯村, 西村 (2名)

(欠席常時参加者) 池澤 (1名)

(発言希望者) 安念, 岡本, 加藤, 木原, 広瀬, 福島, 森田, 山内, 山田 (9名)

(事務局) 厚, 村上

4. 配付資料

配付資料

FTC21-1 第20回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)

FTC21-2 標準委員会の活動概況

FTC21-3 人事について (専門部会)

FTC21-4 人事について (分科会)

FTC21-5-1 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

FTC21-5-2 「極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の安全評価手法 (案)」決議再投票の結果について

FTC21-6 「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準:2004」の改訂について

FTC21-7 「原子力施設の廃止措置の計画と実施 (仮称)」

(研究炉専門部会 廃止措置分科会からの報告)

参考資料

FTC21-参考1 原子燃料サイクル専門部会委員任期一覧

FTC21-参考2 委員運営に関する紹介

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

事務局より, 26名の委員中開始時点で17名の委員と1名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (18名) を満足している旨の報告があった。また, 発言希望者として, 安念 外典 氏 ((財) 原子力研究バックエンド推進センター), 岡本 孝司 氏 (東京大学), 加藤 和之 氏 (東京電力 (株)), 木原 伸二 氏 (日本原子力研究所), 広瀬 誠 氏 (原燃輸送 (株)), 福島 正 氏 (核燃料サイクル開発機構), 森田 徹治 氏 (日本原子力発電 (株)), 山内 豊明 氏 (日本原子力発電 (株)) 及び山田 隆 氏 (核燃料サイクル開発機構) の参加を部会長が了解している旨, 紹介された。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録は承認された。 (FTC21-1)

(3) 標準委員会の活動概況

事務局より, FTC21-2に沿って説明された。

FTC21-2の添付2について, 前回部会コメントにより5年毎の改訂年度を追記したが, 起点を発行からではなく, 制定からとするよう指摘があり見直すこととした。

(4) 人事について

a. 専門部会人事

事務局より, FTC21-3に沿って, 阪口委員が9月末で任期満了となり, これに伴う委員の改選が必要である旨報告された。

部会長より新たな委員の推薦について意見を求めたところ, 藤原委員より, 仲神 元順 氏 (中部電力 (株)) を新たな委員として推薦する旨提案された。

挙手による採決の結果, 承認された。

b. 分科会人事

事務局よりFTC21-4に沿って、各分科会委員が選任された旨報告があり、各々の挙手による採決の結果、承認された。

(5) 分科会活動状況報告 (FTC21-5-1, FTC21-5-2)

a. 輸送容器分科会

進捗状況等について説明され、次の意見があり、次回部会にて5年毎の改訂内容について検討し、標準委員会へ報告することとした。

- ・技術的な変更は変更ではなく、エディトリアルな変更が必要である。エディトリアルな変更の場合でも、制定と同様なプロセスが必要か標準委員会で判断してもらうこととなる。
- ・標準は毎年改訂の可否をチェックし、少なくとも5年毎に改訂をする必要があり、これらは標準担当委員で検討することとなっている。その結果を部会として、技術的な変更の可否の妥当性を判断する必要がある。

b. リサイクル燃料貯蔵分科会

c. 深地層分配係数分科会

d. 浅地中処分安全評価分科会

進捗状況等について説明された。

e. クリアランスレベル検認分科会

進捗状況等について説明され、法規制の動向を的確に捉えるために分科会を継続することとした。なお、分科会の維持の困難さ並びに標準担当委員との役割分担等について明確にしていくこととした。

f. 余裕深度処分対象廃棄体分科会

g. 廃棄体放射能評価分科会

h. 返還廃棄物確認分科会

i. 余裕深度処分安全評価分科会

j. 放射性廃棄物の用語・呼称タスク

進捗状況等について説明された。

(6) 「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準:2004」の改訂について

FTC21-6に沿って、改訂内容並びにスケジュール等を提案し、改訂することに対して承認された。なお、次の意見があった。

- ・学会標準として輸送と貯蔵を分けて改訂することは難しいと考えるが、エンドースのされかたも考慮に入れた形で検討していく。
- ・他学協会との整合、特に機械学会との規格の重複部分並びに引用部分については注意すること。

(7) 「原子力施設の廃止措置の計画と実施(仮称)」(研究炉専門部会 廃止措置分科会からの報告)

本件は第19回標準委員会指示により、各専門部会に報告を行うこととなっている。

FTC21-7に沿って説明され、次の意見があり、研究炉専門部会廃止措置分科会にて、その意見に対し検討し、見解を示した形で標準委員会に報告することとなった。また、廃止措置分科会より、附属書等を委員に送付し、他に意見がないか確認することとした。

- ・1項に「～基本的考え方、要求事項、手引き」と適用範囲として記載しているが、標準をエンドースする場合、手引きをどのように扱えばよいのか。
- ・3.2項の一般安全の記載は、放射線防護上の一般安全と考えるのか、広く一般安全と考えるのか、記載箇所に違和感がある。
- ・4.1.2項の「当該施設内に～残存しない計画とする」の記載は、全てが無くなるように読み取れ、縮小して保管されることも考慮に入れると表現を見直した方がよいと考える。
- ・5.7.2項について、具体的にすることが重要ではないかと考える。施設の違いにより附属書に記載されていると思われるが、全体的な共通部分を本文に記載できないか。

(8) その他 (FTC21-参考2)

事務局より、委員会運営改善の工夫などのついて紹介があった。

6. 今後の予定

次回専門部会開催日程については、別途調整する。

以上